

新たな震災対応サービスステーションの実証展開を開始

当社(社長:木村 康)は、東日本大震災の教訓を踏まえたENEOS「新・震災対応SS(サービスステーション)」の実証展開の開始にあたって、本日、その第1号店(店舗名:Dr. Driveセルフ石巻大街道店、運営:カメイ株式会社)を開所しましたので、お知らせいたします。

当社は、2006年より、災害などにより停電が起きた場合でも、燃料油供給を可能とすることを目的に、計量機を作動させるための小型の緊急用発電機と、手動式の給油ポンプを常設した「震災時給油可能SS」を全国展開してまいりました。

しかしながら、東日本大震災では、多くのSSで津波による浸水により電気系統が損傷し、給油不能となる事態が生じました。こうした新たな課題に対応するため、停電のみならず浸水への対策を講じ、さらには地域の皆様に対する生活インフラ支援を可能とすることで、より広範な災害によるリスクに対応する「新・震災対応SS」の実証を行ってまいります。

このたび開所した1号店では、浸水対策として、モーター簡易交換方式の計量機を導入し、建屋2階へ大型の緊急用発電機を設置することで給油機能の即時復旧が可能となります。さらに、緊急時の生活インフラ支援として、携帯電話用充電器(10台同時充電)、飲料水(貯水槽)および生活用水(井戸水)、一時避難場所として提供可能な建屋屋上のスペースなどを備えます。また、平常時からの省電力対策として、太陽光発電システム、燃料電池エネファームを設置するとともに、キャノピー灯と室内灯をLED照明とし、「大震災に強い設備を有する、地域貢献型かつ省エネ運営のSS」としました。

今後、2013年度までに東北から九州にかけての太平洋側の12市区に各1カ所ずつ、同様の「新・震災対応SS」を設置・実証し、今後の生活インフラとしてのSSの機能向上を検討してまいります。当社は、震災などによる緊急時を含めたエネルギーの安定供給体制の構築を目指すことで、東日本大震災からの復興と、将来を担う次世代が安心して暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【ENEOS「新・震災対応サービスステーション」のコンセプト】

「大震災に強い設備を有する、地域貢献型かつ省エネ運営のSS」

- ①大規模震災が発生した場合においても、基本機能である燃料油給油が可能な設備を有する
- ②燃料油供給はもとより、地域住民に対する生活インフラ支援を可能とする。

【1号店の概要】

1. S S 名 Dr. Driveセルフ石巻大街道店
2. 住 所 宮城県石巻市大街道西2丁目2-21
3. 運営会社 カメイ株式会社(当社特約店)
4. 特 徴 (2号店以降も同様の設備を基本に設置する予定)

①震災に強い設備

- [停電対策] 非常用発電機の設置(自立型電源の確保:出力70kw)
- [浸水対策] 防水型計量機の設置(モーター簡易取替方式)
非常用発電機・燃料電池エネファームは2階に設置

②災害発生時に地域に貢献するための設備

- [携帯電話用電源] 非常用発電による電源提供(10台同時充電)
- [飲料水] 貯水槽を2階に設置(ポリ缶最大200個程度)
- [生活用水] 井戸水の提供、燃料電池エネファームによるお湯の提供
- [緊急用避難場所] SS建屋2F屋上スペース提供(浸水時一時避難、30~40人収容)

③省エネ(省電力)運営のための設備

- [太陽光発電] キャノピー一体型太陽光パネル(再生可能エネルギーの利用:出力10kw)
- [燃料電池] 当社製SOFC型燃料電池エネファーム

[LED照明] キャンपी灯、室内灯のLED化(照明器具の省電力化)



全景



2階への階段



貯水槽、発電機、エネファーム



2階屋上スペース